

喫煙防止教室（１年）を行いました。

9月18日（木）

本日１年生を対象にした喫煙防止教室を行いました。講師には、丹波市福祉健康課の保健師さんと土井たかし先生（NPO 法人京都禁煙推進研究会 とい内科クリニック院長）に来ていただきお世話になりました。近年日本人の喫煙率が20%を切るまで減少してきたこと、タバコについて正しい知識を持って適切な判断ができるようになってきている現状がありますが・・・前半の5校時は土井医師と保健師さんからパワーポイントを見ながら講演を聞きました。タバコについての外国のテレビCMやタバコのパッケージ、双子で吸い続けた人と吸わなかった人との比較、吸い続けた肺と吸わなかった肺との比較など実際にたくさんの写真を見せていただきながら具体的にお話しいただきました。後半の6校時は「タバコふしぎ発見クイズ」と題したワークシートの問題に答えながらパネル展示を見たり、体験をしたりして学習を深めました。体験学習コーナーとして、Aコーナーは「タバコってなんだろう」、Bコーナーは「ニコチンのヒミツ」、Cコーナーは「タバコフリーワールドカップ」、Dコーナーは「タバコ成分クロスワード」が設置されていました。みんなパネルを見たり実験(測定)したりして積極的に学習していました。先生の感想のなかで「生徒の話を聞く態度は大変良かった。きちんと反応したりうなづいたりしていた」と誉めていただきました。そして、親が吸っている家庭が多く中には家族全員が吸っている家庭や未成年の兄が吸っている家庭があったと言われ問題であると感じました。また、高校生では見つかったら停学や退学になる事案であるから、吸っている生徒をうまくやめることができるようにしてやるのは大人の責務である。今やタバコは「ゲートウエイドラッグ」と呼ばれ薬物依存の入り口とされている。学校は子どもを通じて地域への発信力が強いので今後この教育を広めてほしいと締めくくられました。特に、タバコの害を説く脅しの教育ではなく、自分のこととして考えられ、ひいては他人のこととも考えられるようになる生徒を育てるのが目的であると言われたのが印象に残っています。

